

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL. 48 (年4回発行)

■発行日 平成20年3月31日  
■発行 三春まちづくり協会  
■編集 三春まちづくり協会広報部会  
三春町字大町178 (旧公民館内)  
TEL/FAX (62) 3988

### 特集

## 財政改善・少子高齢化・地域振興など課題山積！ — 地区内在住町会議員との懇談会④から —

二月十二日、交流館まほら二階和室で、三春まちづくり協会主催の「地区内在住町会議員との懇談会」が開催されました。懇談会には議員七名（万年議員、渡辺議員、三瓶議員、儀同議員、佐久間議員、小林議員、日下部議員）と、協会員及び一般町民など約40名が参加しました。幕田協会長の司会で、「安心して暮らせる地域づくり」を中心に三春町の財政・福祉・議員定数など町政全般について意見交換が行われました。なお、紙面の関係上、発言内容を要約して編集しましたので、あらかじめお断りいたします。

◆ 今回は、改選後はじめての懇談会ということから、議会活動に当たっての抱負についてひとことずつ述べてもらいました。

◆ 行政でやっていることは核になるがすべてではない。三六五日断らない施設があることが安心して暮らせる介護福祉の証。しかし、行政だけでは賄いきれないのが実状であり、地域の力が絶対必要である。

◆ 議会の存在が大きくなるよう活性化。町長と議会の考えの違いを議論する場とする。執行側にも言える議員として、お互いの考えのすり合わせに努力する。

◆ 町立三春病院を少子・高齢化に活かせる施設となるよう有効策を検討していきたい。

◆ 少数精鋭で行財政改革に取り組み、弾力あるまちづくりを進める。安心して暮らせる町づくりを基本として、すべての政策

を結びつけて取り組む。◆ 観光協会・商工会をバックアップし、観光事業の振興と少子化対策としての企業誘致などを重点に取り組む。

◆ 安心・安全のまちづくりには、子育てサポート事業が重要。町の中心に人が集まる施策を考えていく。地球温暖化対策も、地域でもできることから取り組みを展開したい。

◆ 三春町にも少しずつ元気がでてきたと感じる。桜川河川改修や町立病院建設を契機に、街の中に人が出てくるよう活性化に向けた取り組みを進める。

この後、参加者から町政全般について質問。意見の提起を受け、それぞれ議員との懇談を行いました。

### 《人口減少化について》

◆ 参加者の質問  
◇ 人口減少を懸念して、少子化対策や子育て支援に対する施策について多く

の質問が出されました。

### 【各議員の考え】

◆ 工業団地への企業誘致で若い世代の人を増やし、安心して出産・子育てのできる地域環境をつくる。

◆ 新造成した宅地や遊休宅地に恩典を与え、郡山通勤圏としての立地条件を利用した住環境の充実で若い勤労者世代を増やす施策の検討。

◆ 町営住宅を、国の補助を得て木造で造るなど住環境の整備を行い、人口増加を図る。

◆ 三春の人口減少は周辺自治体より多く、年間一〇%近い数値となっている。要因を突き止め、町民の理解を得ながら対策を考えて行きたい。

◆ 町立三春病院に産婦人科を充実させるとともに、病時保育施設を兼備させ子育てサポート体制を構築し、三春の目玉にするのも有効策と考える。

◆ ファミリーサポートセンター事業や育児サークル活動等を充実させ、共稼ぎしながらも子供を生

み育てられる条件づくりを推進する。

### 《行財政について》

◆ 通年型観光の開拓、空き家対策などにより街中に人が集まる市街中心地域の振興策を考える。

◆ 財政事情が厳しい中、他自治体との行政サービスに差がでる不安もある。

◆ 保育料をタダにすれば子供が増えるとは限らない。

◆ 三春の学校に行けば…とか三春ならば…とか、なにか此処にしかない魅力を作る必要がある。

◆ 三春に魅力が無いのではなく、ある魅力を見せていくことが必要。金やものだけでなく、救いの手をさしのべる住みよい地域づくりへ視野を広げてはどうか。

◆ 高齢化社会に対する行政サービスの水準は高くはないが、財政的に限界が来ると考えられる。

◆ 少子・高齢化対策として財源は必要。義務的経費

の削減により経常収支の改善を図る必要がある。◆ 健康づくりのため、町全体が盛りあがるような声かけ運動が必要である。

◆ 高齢化社会の医療・福祉をどうするのが良いか町民みんなで知恵を出して行かなければならない。

### 《議会活動について》

◆ 今回の町議選は無投票であったので、皆さんの考えを聞く機会がなかった。

◆ 主義・主張は別にして、議会報告や町政事情などの広報、宣伝活動を通して町民との疎通を図るべき。

◆ 無投票と言うことは結果として誰も一票も得票していないことになる。議員定数が多いからではと言った感もあるが、議員としての考えは。

◆ 議員報酬の日当制を提案した自治体もある。良し悪しは別にして、考え方としてはどうか。

◆ 定数を二三名程度に減らしても議会の活性化はできる。町民の声を聴き、現実的にできないことを考えるより、できることを考えて議論を進めるべき。

◆ 出たい人より出したい人を基本に、議員報酬引上げの必要があるなら、定数減分を充当し保障すれば良い。

◆ 若い人でも、女性の人でも議員にならないのは報酬が安いからばかりではない、議会を夜間開催に

すれば可能性が広がる。定数を少なくして、夜間短時間に集中して審議し効率的な議会運営をすることで歳費削減もできる。◆ 十年来、議員定数を少数にするか報酬を下げた。今回一八名から一六名にしたが継続して検討する。◆ チビリ・チビリ減らすので議論が噛み合わない。減らすなら一気に減らす方が明確でよい。

◆ 日当制にして歳費が少なければ良いということではない、若い人も政治に参加できる条件も考える必要がある。

◆ 若い人が参加できる条件として報酬を上げ経済的保障を担保する必要があるが、専門職と見ると異なる、名譽職と見るのかで異なるので充分議論すべき。

◆ 定数減や夜間開催方式について議論になったが、調査活動等をどうするかなど課題もあり具体的な議論にならなかった。

◆ 定数の多い方が議会運営に活気があったと感じる。夜間議会方式の提案もあるが、議員としての精神的な負担を考えると困難な面もある。

最後に、各議員から「住みたい三春町づくり」に対する決意を述べてもらい懇談会を終えました。

(以上)

# 部会だより

## 福祉部会

### 地域の健康づくりについての 勉強会

福祉部会では、主に地域福祉に関する活動をしてきました。活動の一つとして十七年度は「介護保険」および「三春町地域福祉計画」十八年度は「改正介護保険制度」についてそれぞれ公開勉強会を開催しました。その結果、多種多様な課題があることを知りました。

福祉部会では特に問題意識を持ったことは、今後、高齢化が進展する中で、要援護者の増加、それに伴って医療費、介護給付費が急激に膨らんでいくことが懸念されたことでした。

そこで、十九年度の福祉部会の活動として、誰もがいつまでも健康に過ごすことができれば、高齢化が進



んでも、医療費・介護給付費等の増加を抑えることができるのではないかと認識を深め、そのためには「心身ともに健やかで、明るくいつまでも元気に生活している」そんな方々が地域で活躍している姿をイメージし、健康づくりを目指すことになりました。

そこで今回、葛西先生の全面的な指導、ご協力により「健康づくり」を具体的に進めるための勉強会を開催しました。

### 勉強会レポート

三月十三日、三春交流館和室で「あなたが主役の健康づくり」と題して勉強会が開催されました。

福島県立医大、地域・家庭医療部教授の葛西龍樹先生が「地域医療」について話をされたあと、ワークシヨップ方式を取り入れた勉強会となりました。

最初に、いま気がかりなこと、一番の関心事は何かを考えると、ワークシヨップが始まりました。気がかりが軽くなるのが健康の第一歩だということに気づき、どうしたら解決できるか、その戦略をみんなと一緒に考えてみるというのがねらいです。

四つのグループに分かれて話し合いをした結果、次のように実に様々な「気が



◇お腹だけが冷える 等々 これらの「気がかり」をさらに次の五つのグループに分け、話し合いをしました。

- ① 肥満、メタボ
- ② 薬、医師への気がかり
- ③ 認知症、物忘れ
- ④ 介護
- ⑤ その他

こうして「気がかり」な問題を整理しながら、

- 気づく
- 計画する
- やってみる
- 振り返る

というサイクルで考えていくことを一年くらいかけてやってみようというものが、葛西教授の提案です。

福祉部会では、平成二十年度もこの活動を続けていく予定です。町民の皆さまぜひ参加してください。

## 「家庭医療」とは

どのような問題にもすぐ対応し  
家族と地域の広がりの中で  
疾患の背景にある問題を重視しながら  
病気を持つひとを人間として理解し  
からだところをバランスよくケアし  
利用者との継続したパートナーシップを築き  
そのケアに関わる多くの人と協力して  
地域の健康ネットワークを創り  
十分な説明と情報の提供を行うことに責任を持つ  
家庭医によって提供される医療サービスです



◇お腹だけが冷える 等々 これらの「気がかり」をさらに次の五つのグループに分け、話し合いをしました。

- ① 肥満、メタボ
- ② 薬、医師への気がかり
- ③ 認知症、物忘れ
- ④ 介護
- ⑤ その他

こうして「気がかり」な問題を整理しながら、

- 気づく
- 計画する
- やってみる
- 振り返る

というサイクルで考えていくことを一年くらいかけてやってみようというものが、葛西教授の提案です。

福祉部会では、平成二十年度もこの活動を続けていく予定です。町民の皆さまぜひ参加してください。

## 町の課題をみんなて 考えましょう!

### 4月から、毎月第2水曜日は 「出前懇談会」

#### 第1回 定期出前懇談会

とき ● 4月9日(水)  
午後7時から

ところ ● 三春交流館  
2階会議室C・D

テーマ ● 「役場のしくみ」

担当：三春町役場「総務課」

町民の皆様  
どなたでも  
参加できます

## 環境部会

### 米のとき汁EM菌発酵液 の勉強会

二月二十九日、まほらに大勢の方々に集まりいただきました。EMに早くから取り組んでいる三春町商工会女性部の橋本部長はじめ部員の方々に講師に招いて、米のとき汁EM菌発酵液を作り、ペットボトルに入れた液を出席された皆さんが持ち帰って、各々家庭で発酵させて活用して効果を見ることにしました。

商工会女性部でおすすめのEMエコ石けんは家庭から出る廃油を使いセラミックパウダーが入った無添加石けん、体にも環境にも優しいということで三春町内の商店で販売しています。米のとき汁EM菌発酵液や石けんの使い方について、キッチン、洗濯、風呂場、トイレ、ペットなど体験談をいろいろ聞くことができ

ました。EM菌は悪臭対策、汚れ落とし、水質浄化など暮らしに役立つことを学んだ勉強会でした。



## EMとは

||

Effective(有用) Microorganisms(微生物群)

(自然界にたくさんいる微生物の中で、人間にも自然環境にも役立つ物を有用微生物といいます)

## 編集後記

◇「三春わが街」三十三号(平成十六年)で北海道七ヶ町の「まちづくり町民講座」を紹介した。役場の担当者が講師になって町民と議論をするという試みで、そのときすでに八〇回を数えていた。

◇各回のテーマは「観光と農業の結びつき」「町民の健康を支える仕組みを考える」「議会の役割、議員の役割」「行政のサービスなど」と実に多彩なものだ。最近七ヶ町のホームページを見たらちゃんと継続されており、もう一〇八回になっていた。

◇いよいよ三春町でも出前懇談会の定期開催が実現することになった。三春まちづくり協会の主催で毎月第二水曜日、よる七時からまほら二階の学習室で開催される。昨秋のまちづくり懇談会の資料に、出前懇談会のテーマの例が掲載されているが、それに限らず、幅広いテーマについての懇談会にしていきたい。

◇年に十二回。これを五年十年と続けていくことにより、町民みんなが町の問題を自分のこととして考えるきっかけになればと願う。

(永井)

コミュニティだより  
「三春わが街」第四十八号  
発行日 平成二十年三月三十一日  
発行 三春まちづくり協会  
編集 三春まちづくり協会  
広報部 会  
三春町字大町一七八  
(六二) 三九八八